

## 土地利用図作成から地理を学ぶ

春日部共栄高等学校 松宮 博

### 1 はじめに

帝国書院からの執筆依頼は、新学習指導要領で重視されている「作業的・体験的学習」であること。かつ地理の専門以外の先生方が参考となる内容であること。「交通・通信・地図」の関連のテーマであることであった。新学習指導要領は内容の「精選」と「基礎・基本」を重視することが謳われている。その中で作業的・体験的学習を実践するのであるから、教師の工夫しだいで生徒は地理に対して強い興味を抱くようになるだろう。一方で大学受験がある。残念ながら現在の教科書の内容では受験のための十分な知識が得られるとはいえない。「基礎・基本」を押さえながら「受験」のレベルも維持する。そして何より生徒に地理の面白さを伝える。そのような授業の展開例をご紹介します。

### 2 わが校のカリキュラム

わが校での地理の授業は理系のコースのみで、かつ地歴3教科の中から1科目を選択。これを2・3年の連続履修(6単位)としている。1学年4開講で、最も人数の多いクラスで22名、少ないクラスでは7名と小規模なので作業などはやりやすい。一方、全員が大学進学を希望しているので授業の内容も基礎だけではおさまらない。標準単位よりも多い時間数ではあるが、教科書のすべての内容を十分に理解させるには不十分である。そこで内容の精選をすることになる。入試にも対応し、地理の面白さを理解させるために、かなり割り切って内容を絞ることをしている。今回は多くの先生方も実践されている地形図の作業と利用に関して、わが校の実例をご紹介します、参考にさせていただ

ければと思っている。

### 3 地形図の作業と利用

地形図の読図は大学入試に類出されるので、どの高校でも授業には力を入れておられると思う。わが校では「週3時間×3週間」、計9時間を地形図だけにさいている。2年間のカリキュラムの中で最もこだわっている単元である。授業計画は以下の通りである。

①	地形図のルール
②	等高線図の作成(宿題)
③	解説と演習問題
④～⑥	土地利用図の作成(宿題)
⑦	解説
⑧	地域調査(机上授業)
⑨	演習

これ以外に、完成した土地利用図を使用して夏休み等に巡検を実施している。シラバスでは9時間となっているが、ここ2・3年はこの時間をオーバーしているのが現状である。の授業の終わりに生徒に地形図の購入を指示する。ある程度は誘導するが基本的には生徒の好みの図版を次の時間までに用意させる。地形図とはどのようなものか教科書などで知っていても、本物の地形図を一度も見たことがないまま卒業していく高校生が多いなかで、これにはこだわっている(購入は基本的に2.5万分の1であるが、地域により5万分の1も可としている)。の時間は計曲線を細目の水性ペンなどで強調させ、その地域の地形を理解させる。この作業は単調であり眼が疲れるが、明らかに生徒は興味を持ちながら作業をしている。1時間ではとても完成するものではないので、残りの

作業は宿題にする。完成した等高線図の解説と過去の入試問題の演習を終えて、いよいよ土地利用図の作業開始である。着色する色は、国土地理院の土地利用図に準ずるが、少々色を濃くすることと、建物（住宅・集落）は赤で細かくマークさせる。この作業に入ると、お互いの作業状況を比べ、新しい発見を披露しあいながら大変いきいきした眼をして着色を行うようになる。ここで教師が机間巡視をしながらそれぞれの土地利用や地形を解説し、一緒にその地域の風景を想像する。これがポイントである。とかく一方通行になりがちな授業を、生徒の隣に座り生徒の話を聞くことにより双方向のものにすることができるようになる。また、生徒の発言から我々も新たな発見をすることも多い。前記の通りわが校では理系の生徒のみ、それも世界史・日本史・地理からの選択であるから、明らかに歴史から逃げて来る生徒が地理選択者には多い。同じ暗記ならば地理の方が気楽であろうという判断であろう。しかし、これらの作業を通じて地理は暗記だけではなく、考えることが重要であることを理解し始めるきっかけになるのは間違いないようだ。下の図は、ある生徒が自分の居住地である千葉県野田市の地形図に作業を施した土地利用図〔図1〕と手を加えていないもの〔図2〕の比較である。（色が出ないのが残念。）



図1

#### 4 現地調査（巡検）を実施

さて、美しい土地利用図が完成したところで生徒が想像した図版の風景と現地の風景を比較させることも大切なことである。〔図1〕のように学校から近い場所は日曜・休日を使って調査することができるが、扇状地や河岸段丘などの巡検は長期休暇を利用するようになる。今までに実施した場所は「新詳高等地図」p.74でおなじみの京戸川扇状地、片品川の河岸段丘や、渡良瀬川扇状地、黒部川扇状地、三浦半島南部の海岸等、生徒が土地利用図を作成し、かつ特徴ある地形が観察できる地域である。昨年(2001年)は11月に勝沼町を訪れ、京戸川扇状地の調査をはじめ、町役場ではブドウ栽培の歴史やご苦労などをお聞きし、釈迦堂博物館を経由しながら最後は町民ぶどうの丘からの風景を眺め、各自が地形図から想像した風景との差を実感し充実した一日を終えている。

#### 5 “地図は現地ではない”

本物の地形図に触れることにより、「地理」に興味を持ち結果的に入試で高得点を得る。一方で受験科目としてだけではなく地図を愛し、現地を調べることにより深い知識と考えを持つ生徒が一人でも多くなればと思っている。現在実施されている授業をもう一步踏み込んで実践される際の参考になれば幸いである。



図2